

令和 7 年 9 月 1 2 日（金）

第 3 回定例会一般質問

（要旨及び質問順位）

新 冠 町 議 会

第3回定例会一般質問

1 武藤 勝罔 議員

カムチャツカ半島沖地震に伴う津波避難からの問題点は

2 武藤 勝罔 議員

生活保護世帯へのエアコン設置の支援を

3 海馬澤 真紀子 議員

高齢者が安心して集える場所、認知症予防について

4 酒井 益幸 議員

ゼロカーボン施策について

5 但野 裕之 議員

観光振興で地域の活性化を

6 但野 裕之 議員

緊急銃猟について

7 長浜 謙太郎 議員

メタバースを活用した学習支援について

8 長浜 謙太郎 議員

観光DXによる関係人口の拡大について

9 武田 修一 議員

「ヒグマ対策」について

第3回定例会一般質問要旨

NO. 1

順位	質問議員名	発言要旨	答弁を 求める者
1	武藤 勝圀	カムチャツカ半島沖地震に伴う津波避難からの問題点は	町 長
		今まで災害の問題点などは、その都度、聞いてきましたが今回の津波避難からも、問題点は明らかにすべきとの観点から質問します。 ① 今回の津波避難で、明らかになった問題点や課題は何ですか。 ② 道は今年、北海道版避難所マニュアルを、人道支援の国際的な基準とされる「スフィア基準」を踏まえた内容に修正を行いました。町でもこれに基づいた改正を行うべきではないでしょうか。 ③ 女性の視点に立った防災の取り組みが急がれています。災害時の避難所生活のニーズには性差があるため、女性の防災リーダーを育成することが大きな課題です。防災部門への女性職員の配置など、どう検討されていますか。 ④ 避難所となる体育館への空調設備の検討状況は、どうなっていますか。	
2	武藤 勝圀	生活保護世帯へのエアコン設置の支援	町 長
		ここ日高地方でも、年々、暑さは厳しくなっています。エアコンは生活に必要なものになってきています。生活保護世帯へのエアコン設置のための購入支援の拡充が必要と思います。4点、伺います。 ① 現在までの生活保護世帯へのエアコン設置に係わる支援件数は。 ② 厚生労働省社会・援護局保護課は（令和7年5月30日）に「生活保護世帯におけるエアコン購入費用に関する取扱い等について」という事務連絡を発出しています。これによると「生活保護世帯においては、エアコンも含め、日常生活に必要な生活用品については、保護費のやりくりによって計画的に購入していただくものである」と述べています。 生活保護世帯への周知はなされていますか。 ③ 最近の暑さは命に係わる危険な状況です。日高地方においても、エアコンは生活に必要なものになっています。生活保護世帯の8割以上が、熱中症リスクの高い高齢者世帯です。急ぐべき課題だと思いますが。 ④ エアコンは便利な家電ですが、反面、電気代が高額になるのが難点です。冬季間に『冬季加算』があるように、夏季にも『夏季加算』を創設するよう国に求めていくべきではないでしょうか。	

第3回定例会一般質問要旨

NO. 2

順位	質問議員名	発言要旨	答弁を 求める者
3	海馬澤真紀子	高齢者が安心して集える場所、認知症予防について	町 長
		1 点 目 町内において高齢者の方が、日常的に集える場所（地域サロン・健康体操）は、どのように整備され地域に公平に存在していますか。 2 点 目 その中でも新冠町で実施されている「認知症カフェ」などの取り組みについて、現在の状況と利用者の反応と課題についてお聞かせ下さい。 3 点 目 これらの場所に通いたくても「交通手段がない」などといった理由で参加をためらう方もいます。町としてそうした「潜在的な参加者」に対して、どのような対応をしていくかを伺います。 4 点 目 今後認知症予防の視点も含め、こうした場所を増やすための町の基本的な方針があればお聞かせ下さい。	
4	酒井 益幸	ゼロカーボン施策について	町 長
		当町におけるゼロカーボン宣言による将来のまちづくりに施策推進は必要である。関係者からは一刻も早く施策推進すべきとの声がある。 一方で、実行計画における区域施策編は、地球温暖化対策に関する専門知識や知見を有しなければならないなど、策定に向けて職員不足解消や制度的知識、地域事地業者の連携協力などが必要と思う。計画に盛り込む対策予算等の確保が難しいケースもあると思うが、計画策定にあたり課題等の問題はないのか。 町長の公約である一般家庭に対する太陽光発電の導入した補助制度創設を考えているが、慎重に進めるべきである。当町において過去にも事業実施した経緯があり、事業見直しとなっている。F I T制度における一般住宅の売電期間は10年間で終了し、本制度は年々売電単価が下がり続けている。加えてすでに建築済み一戸建て住宅では後付け設置工事が高額となるケースがある。太陽光パネルの耐用年数は約20年とされ、耐用年数を過ぎると極端に発電能力が下がり、パネル廃棄が高額になるなどの理由により普及が進まないとされる。個人が行う設備投資にリスクがあるように思う。このことから、果たして町民が望んでいるのか疑問が生じる。一般家庭の太陽光発電施策について所見を伺う。	

第3回定例会一般質問要旨

NO. 3

順位	質問議員名	発言要旨	答弁を 求める者
5	但野 裕之	観光振興で地域の活性化を	町 長
		国内最大の陸域面積を誇る日高山脈襟裳十勝国立公園が、誕生して1年を迎えた。日高・十勝管内の自治体や事業者は、知恵を絞り情報発信を行い、観光振興に取り組んでいる。この1年で、大自然の魅力を楽しむ動きも少しずつ広がっているように思われる。 一方、当町はというと、国立公園をアピールする主だった動きもなく、行政の取り組みが見受けられない。他町と比べて国立公園に対する温度差を感じる。 昨年の国立公園の指定、太陽の森ディマシオ美術館の油彩画の世界ギネス認定、今年度の新冠IC開通は、当町の観光産業の転機となる。この転機を好機として捉えて、観光振興を官民連携して図ることは当町の活性化・地域振興に繋がるのでは。 町長の国立公園指定に対応した、観光行政に係る所信を伺う。	
6	但野 裕之	緊急銃猟について	町 長
		緊急銃猟は、9月1日から施行される改正鳥獣保護法によって、新たに創設された。近年、市街地などの人の生活圏内で熊に襲われる人が相次いでいる中、緊急対応を強化しようとするもの。これまで市街地での猟銃使用は禁止されており、危険性が高い場合に、警察がハンターに命じての発砲が可能であった。今後は必ず緊急銃猟で対応しなければならないわけではないが、対応が難しい場合に予防的かつ迅速に取り組めるようになり、市町村長の判断で銃器の使用が可能になった。 環境省は手順を定めたガイドラインの中で、熊出没時に円滑に対応できるよう、市町村にマニュアルの作成や関係者による訓練を求めているほか、熊の生息数の調査や個体群の管理を強化するなど総合的な対応の必要性を指摘している。当町の対応は万全なのか。次の5点について伺う。 ① 関係団体等と協議し、環境省の求めるマニュアル作成は完了しているのか。 ② 警察・地元猟友会など関係者による訓練等を実施しているのか。 ③ 環境省は指針の説明会をオンラインで実施したが、参加者の有無は。 ④ 環境省の主催する「緊急銃猟に係る現地研修会」が8月に上川管内下川町と名寄川河川敷を会場に開かれているが、当町の参加は。 ⑤ 改正法施行までの取り組み経過の説明を時系列で。	

第3回定例会一般質問要旨

NO. 4

順位	質問議員名	発言要旨	答弁を 求める者
7	長浜 謙太郎	メタバースを活用した学習支援について	教育長
		当町では商工会が中心となりメタバースを活用した学習塾が始まったが、行政との連携は十分でないと感じる。一方、北海道教育委員会でも不登校支援を目的としたメタバース事業が進められており、当町の施策と組み合わせる事で教育力の向上だけでなく、新たな可能性にも繋がる。また当町の児童生徒には一人一台のタブレット端末が支給されており、これを積極的に活用する事で事業がより現実的になると考え、3点伺う。 ・商工会によるメタバース学習塾について、教育施策に位置付け、現場との連携を進め、積極的に支援する検討をしては。 ・道教委が進める「ほっかいどう メタ☆キャンパス」との連携可能性は。 ・児童生徒に配布された一人一台端末を、メタバース学習や不登校支援に活用しては。	
8	長浜 謙太郎	観光DXによる関係人口の拡大について	町 長
		観光協会による「AIを活用した牧場見学マナー観光案内」や商工会の「メタバース学習塾」など、それぞれ新しい取り組みを進めているが、行政との連携が十分とは感じられない。新たに組織された行政DX推進係を生かし、町全体で観光DXを推進する体制づくりが必要と感じる。また、観光収益の拡大と共に、「関係人口」を増やす事がまちづくりに直結し、当町の持続可能性には欠かせないという観点から次の5点を伺う。 1. 観光協会が取り組んでいるAI観光案内について、行政としての評価は。 2. 商工会・観光協会が先行するAIやメタバース活用に対する行政連携の考えは。 3. AI観光案内を始めとする観光DXを行政DX推進係と連携して推進する考えは。 4. 関係人口の拡大を観光政策にどう反映するのか。 5. 行政・観光協会・商工会が方向性を共有し、観光DXや関係人口拡大を進める「連携の仕組み」構築の考え方は。	
9	武田 修一	「ヒグマ対策」について	町 長
		最近全道各地でヒグマの出没や食害が相次ぎ、人命に関わる重大な事例も発生している。 町内に於いても様々な場所で頻繁に目撃されており、これまで通りの対応ではうまく立ちゆかなくなって来ているのではと危惧している 移動距離も大きく、どこに潜んでいるのか分からないなど難しい問題も少なくないが、だからこそ、町民のより安全安心な暮らしのために災害級の対策が急務であると考えているがいかがか。 ご所見を伺う。	